

母なる港が見える暮らし

- ・佐世保港は佐世保市民の母なる港です。赤崎岳をバックにしたこの愛すべき港は私たちに様々な表情を見せてくれます。晴天も曇天も雨空も、朝な夕なに、私たちに語りかけています。佐世保に住む人の多くはその表情に勇気づけられ慰められてきました。
- ・弓張岳の展望台、烏帽子岳のふもとを東西に走るバイパス等には佐世保候港のたくさんの視点場があります。標高60メートルを越える辺りの私たちの居住地は港とともに暮らしています。港は私たちの働く場所であり、坂の上の暮らしは安息の地でもあります。そんな港と居住地の一体感を取り戻したいものです。
- ・自衛隊・海上保安庁・米海軍の船、五島や湾内の連絡船以外に、コロナに耐えた3年を超えて国際クルーズ船の再登場も始まります。母なる港が見える暮らしに誇りをもって、この地を未来に送るとというのが私たちの望みなのです。



「住民の暮らしに根ざす」

- ・私たちの暮らしづくりはそこに居住する住民を中心にするということです。地域再生は生活者本位によるものでありたいというのがSYWの基本姿勢です。白南風町36番10号(旧指山博義邸)とその前の宅地を拠点として、空き家空き地の再生とその進め方を学びます。地域住民の声と行動といった暮らしに根ざす取り組みが何よりも大切なものだと思います。その上で、若者や県外の人たちを誘致し受け入れることを進めます。

「住民参加イベントを企画中」

- ・8月と9月に旧指山博義邸でワークショップを行いました(「坂の上の暮らし」特別号3号と4号に掲載)。その活動評価を11月8日に同じ旧指山邸において参加者9名で行いました。その評価は惨たんたるものでした。少しだけ学びがあり楽しい住民参加のイベントを企画すべきだという結論になりました。
- ・空き地を活用した住民手づくりの市民防災(近助コミュニケーション)と空き地活用のイベントを早々に行うという動きを企画中です。もっと斜面地の魅力とその現実を学ぶという考え方をとることとしました。
- ・白南風町民や関心をもつ人たちが積極的に参加できるイベントにしたいと企画中です。

斜面地低未利用地再生事業

モデル事業3宅地を2宅地に変更。穂刈宅地の所有者のSYWへの参加がないので、対象から外した。今では周辺住民による自主的な除草が起きている。

防災シビックプライド育成事業

「近助コミュニティ」としての市民防災のあり方を考えるしくみづくりを学ぶ。

斜面モビリティ事業

斜面地移動機器「ノボロ」は松尾俊理事の自家用車内にある。いつでも、どこでも、誰にでも斜面地利用のために使って欲しいのでPR準備ができています。